

さくら新聞

発行者：
下関深坂さくら友の会
下関市安岡町1-8-3
TEL: 083-258-0143
FAX: 083-258-5910
<http://www.dion.ne.jp/yasuokac/~sakura>

明けましておめでとうございます

1月9日 定例会



ミゾレ混じりの小雨降る寒い朝でした。9時、49名も集合しました。そのことにみな感激。「こんな天気が悪いときは、年寄りには止めときい。」と、身体を心配する家の人の声が少なからずあった。

ようだが、「俺が行かねば、誰が行く。」と固い決意の程を語れば、「あなたがそこまでするのなら、もう引き止めてません。どうぞ温かくして行って来てください。」と送り出されてきた面々、互いの意気軒昂振りを称え合った。温かくし過ぎて、寒いはずの作業が、汗びっしょりと言う方もあったとかで、後が心配。

理事長の挨拶では、昨年未挑戦していた指定管理者は、残念ながら落選した事が報告された。

この日は6班に分かれて、桜の木の下狗巣に罹った枝の切除作業を行った。11時半で作業を終了、お昼は、いつもとチョット趣向が違って、カレー汁、野菜サラダ、パン2ヶ、バナナ、そして、ぜんざいという予告だったが、いつのまにか、ぜんざいの代わりで七草粥にメニュー変更。いずれも美味しかった。あとはゲームなどで楽しんだ。

深坂自然の森を
市民目線で見つめ直す



会員交流部会長
城戸 哲郎

この度は、私に年頭の挨拶の依頼がありました。昨年夏号の西川専務理事に次いでのこと、光栄なことです。

ド素人ばかりの桜守集団の下関深坂さくら友の会が発足してから今年で6年目に突入します。その間NPO法人に衣替えすることにも成功し、新しい事務所への移転も完了し、維持管理部会のメンバーを中心にもう「ド素人」とは言わせないすばらしい新生桜守集団へ成長してきております。頼もしいものです。

昨年チャレンジさせていただいた、深坂自然の森と森の家下関の指定管理者の選考に関しては、残念ながら朗報を皆様方にご報告できませんでした。私達プロジェクトチームも名前ばかり、かつこよくつけても、やはりド素人なのだと感じております。

しかしながら、プロジェクトチームメンバー9人は、4月より本格活動を開始、深坂の森を市民目線で見つめ直す作業に入り、10回近くの会合を重ね、深坂を肌で感じた人にならなければならぬ。深坂のグランドデザインを模索してきました。その集大成として提出した事業計画書の控えを、事務所に4冊保存しております。会員の皆様には、是非一度目を通して欲しいなと思っております。

私は友の会では、会員交流部会のお世話をさせていただいております。毎回の定例会の昼に出す食事の支度の総監督を仰せつかつております。毎回50名前後の会員さんに野外作業をしていたりしております。この昼食（同じ釜の飯を食う連帯感）の意義は大きいと思っております。調理をする会員交流部会のメンバーの連帯感もすごくもり上がっております。

深坂さくらえも今年4回目を迎えます。さらに充実したものにするべく、早くも部会を開いて、意気軒昂です、ご期待ください。桜の研修旅行ですが、先の新聞で東北地方の弘前、角館方面という一部報道が流れまして、一応見積もりを取って見ましたが、東北地方には、下関から行くには

大変で、本当に「みちのく」なんだなと思えました。よって部会で一任された部長の独断と偏見で九州方面に決めました。意味づけも考えねばなりません。今、友の会が変わろうとしています。会員の皆様のご意見を尊重しながら桜の維持管理を中心とした原則を誤ることなく、一生懸命お世話をさせていただきます。皆様のお世話をさせていただきます。皆様の描いた夢が少しでも現実のものとなりますようがんばりましょう。

(平成廿三年一月)

城戸哲郎さんは、指定管理者制度のプロジェクトリーダーを務めました。実に誠実な人柄で、黙々と必要なデータや有益な情報を収集して提供し、常にリーダーシップを発揮しプロジェクトをまとめました。おかげで、プロジェクトメンバーも、熱い議論を戦わせたがらも、和気藹々、みな最後までも熱心に働きました。しかし、残念ながら昨年末の結果は落選でした。責任感の強い兄は、そのショックと心労と過労と、いささかタバコの吸い過ぎ（本人否定）のせい、昨年末から健康を害し入院加療中です。一日も早い健康の回復をみなさまもお祈りください。

(編集部)

桜四方山

今年の桜研修旅行の目的は熊本県の市房（いちふさ）ダムと決まった。桜名所100選にも選ばれている桜の名所だ。ダムの周囲14kmに2万本の桜があり、桜のトンネルをなしているという。ダムの中央には大噴水があつて、見応えがあるらしい。早くも見てみたい気がしてきた。



ダムのある球磨郡水上（みづかみ）村は、九州のど真ん中と言ってもよい。あの秘境と言われた宮崎県椎葉村と境を接し、その県境（村境）は明治の廃藩置県以来140年振りに昨年円満に確定したと言うから驚く。最寄空港は鹿児島空港。毎年各県から一升の米が天皇に献上されているが、今年は43年振りに熊本県では唯一水上村がこれに取り組む。スローライフの絶滅危惧村か。